

日韓学術交流シンポジウム

テーマ：『ソーシャルワーカー養成の方向 - 専門性を高め、職域拡大や待遇向上に向けて -』

コーディネーター：白澤 政和 氏（大阪市立大学大学院教授）

シンポジスト：柳 淇馨 氏（釜山大学教授・韓国社会福祉学会会長）

李 基永 氏（釜山大学教授・韓国社会福祉学会総務分科委員長）

諏訪 徹 氏（厚生労働省社会・援護局総務課社会福祉専門官）

大橋 謙策 氏（日本社会事業大学学長）

指定討論者：蔡 麟 氏（上海師範大学法政学院教授・上海師範大学社会学研究所所長）

コーディネーター：白澤 政和（大阪市立大学大学院教授）

今回の日韓学術交流シンポジウム「ソーシャルワーカー養成の方向－専門性を高め、職域拡大や待遇向上に向けて－」では、韓国と日本の両国について、単に社会福祉士だけでなく、広くソーシャルワーカーの養成教育をどのように充実していくのかを明らかにし、かたや、そのような教育を行うことを介して、どのようにして社会的地位や待遇を向上させ、かつ職域を拡大させていくかについて議論したい。それについて、両国の共通点と相違点を浮き彫りにすることにある。

既に、ソーシャルワーカー養成に関するシンポジウムは、今回が3回目の開催である。第1回の岡山大会では、社会福祉士を中心にして、養成教育の現状が示され、韓国では、就労後の継続教育が義務化し、日本では、カリキュラムや実習・演習の見直しが進められていることが報告された。同時に、両国共にソーシャルワーカーの社会的待遇がきわめて悪いことが報告された、第2回の韓国ソウルでのシンポジウムでは、現在日本や韓国で取り組もうとしている養成教育を相互に取り入れていくことが話し合われた。韓国での始まった継続教育や日本で取り組んでいこうとしている「専門社会福祉士」をベースにして、キャリアパスを作り上げていくことが不可欠であることが共通認識された。そのため、両国が進めている動向にお互い関心を深めていこうということになった。

以上を受けて、今回のシンポジウムでは、両国において、大学院教育や継続教育も含めて、大学教育から管理者になるべく過程に至るまでの、ソーシャルワーカー養成教育の継続的な方向を見定めたいと考えている。その結果として、日本では専門社会福祉士のあるべき方法を提示し、キャリアパスを作り上げていくことで、社会的地位の向上につなげていきたいと考えている。韓国からも継続教育の実績を踏まえ、同時にいくつかの専門職大学院の実績をもとに、どのようなソーシャルワーカー養成教育のキャリアパスを示せるかを報告いただこうと思っている。

結果として、冒頭に述べた養成教育の推進と社会的待遇改善がそれぞれ分かれて実施されるのではなく、相互に補いながら一体的に進めていくことについて、一定の成果が得られることを期待している。なお、日本と韓国に加えて、中国では昨年からは社会工員という名称でソーシャルワークの国家資格ができたが、中国の大学でのソーシャルワーカー養成の現状や課題について、中国側から指定討論者としてコメント頂くことにし、前回、前々回より少し間口を広げて議論したいと考えている。